

特別展 「国宝 東京博物館のすべて」

東京博物館・平成館特別展示室（上野公園） 2022.10.18～12.11

創立150年記念事業として開催される本展は、積み重ねられた「約120万件」もの膨大な所蔵品中から「国宝89件」の全てを含む名品と、明治から令和に至る150年の歩みを物語る関連資料を通じて当館の全貌を紹介している。

<第一部>

狩野永徳筆 《檜図屏風》 国宝 1590年（安土桃山時代）

画伯が描いた障壁画傑作で、巨木檜の迫力は圧倒的で生命力に満ちている。



<第二部>

一曜斎国輝 《古今珍物集覧》1872年（明治時代）

湯島聖堂博覧会を描いた「3枚組の錦絵」で、正面の建物と左右の回廊の棚に並ぶ様々な陳列品を強烈な色彩で描いた変わり種の一点で、わが国における明治5年開催された最初の博覧会の陳列風景であったという作品である。

